

〈NGO・外務省定期協議会 議題案／質問状記入シート〉

1. 議題案名：

第4回援助効果向上ハイレベルフォーラムのフォローアップについて

2. 議題の背景：

2011年11月に開催された第4回援助効果向上ハイレベルフォーラム（HLF4）の積み残し課題であった①「効果的な開発協力のためのグローバル・パートナーシップ」のガバナンス体制、及び②釜山の合意内容の進捗状況をグローバル・レベルで測るモニタリング指標は、過去6カ月にわたる議論を経て、去る6月28・29日にパリで行われた援助効果作業部会（WP-EFF）の会合にて、正式に採択された。また、援助の透明性に関する共通基準も併せて合意された。

今回の合意内容は今後、実施段階に移ることになる。

交渉に参加していた市民社会のメンバーからは、かかる交渉に於ける我が国の交渉姿勢は概ね建設的であったとの報告が私たちの下に届けられており、私たち日本の市民社会としても、我が国政府の努力に敬意を表したい。

3. 議題に関わる問題点（議題に上げたい理由）：

今回の援助効果作業部会会合での決定内容が、ODAの質面での改善に関する国際的な根拠となるため。また、日本のODA政策における援助効果向上の取り組みも、これを踏まえたうえで行われる必要があるため。

4. 質問：

① 合意された「効果的な開発協力のためのグローバル・パートナーシップ体制」に対する我が国の評価

- 我が国の要求内容が反映された点
- 異なる結論が望まれたと思われる点

② 合意されたグローバル・モニタリング枠組み/指標に関する我が国の評価

- 我が国の要求内容が反映された点
- 異なる結論が望まれたと思われる点
- 指標の達成を目指すにあたり、我が国ODAはどのような課題を克服する必要があるか。

③ 本年12月までにUNDPとOECDが結論を出すことになっている、アカウンタビリティの確保手段（これまではOECD内のピアレビューがその機能を果たしていた）について、我が国としてはどのような形が望ましいと考えるか。

④ 同じく本年12月までにドナーが作成することになっている援助の透明性に関する実施計画について、我が国としてはどのように取り組んでいく予定か。

⑤ 援助の透明性に関して、IATIの**common standards**に照らして、日本として何を改善すべきと考えているか？日本がIATIに同意していなくとも、行政仕分けなどで指摘されているように、透明性・情報公開は進める必要がある。国際社会のスタンダードと国内からの要請の間で、透明性・情報公開をどのような優先順位をもって進めていくのか教えて頂きたい。

- 氏名：山田太雲／高橋清貴／水澤恵
- 役職：アドボカシー・マネージャー／世話人／調査・提言グループマネージャー
- 所属団体：オックスファム・ジャパン／ODA改革ネットワーク／国際協力NGOセンター
- 連絡先：takumo@oxfam.jp, kiyo@ngo-jvc.net advocacy@janic.org